様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２２年４月１９日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2007～2010
課題番号：１９３２００５０
研究課題名（和文）イランの祭祀・信仰に関するデータベースの構築とペルシア文学論への発展的応用研究
研究課題名（英文）Construction of Database on Worship and Belief and Applied Research of Theories of Persian Literature in Expanded Form

研究代表者
森　茂男（MORI　SHIGEO）
大阪大学・大学院言語文化研究科・教授
研究者番号：40273734

研究代表者の専門分野：イラン語歴史言語学
科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論
キーワード：外国語（中・英・仏・独除く），外国文学（中・英・仏・独除く），文学論，民俗学，イラン

１．研究計画の概要

本研究は、現代のイラン人が保持する伝統的な祭祀・信仰に関する資料をデータベース化することにより，これまで断片的にしか提示されてこなかった当分野の研究資料を一元化し、研究の効率を格段に向上させることを目指すものである。このため，イラン国内でのイスラム以前の遺跡をはじめとする資料収集，データベース構築に係る作業，文学論への応用研究に係る研究活動を実施する。

２．研究の進捗状況

本研究の進捗状況を３項目に分けて説明する。

(1)イラン国内での資料収集

イスラム以前の遺跡を中心とする画像資料の収集およびイラン言語文化学関連資料の収集を重点的に行った。イラン文化圏は歴史的には周辺地域も含む場合があるため，イラン国内の調査に加えて，イランに隣接し，且つイラン祭祀信仰研究にとって重要なトルコ共和国における調査を実施した。また，イラン国内においてイスラム以前の古代遺跡を中心とする画像資料の収集およびソフレと呼ばれる主として女性が行う儀礼的民俗の収集を行った。

(2) データベース構築

構築しているデータベースの中で，古代イランの遺跡に関する部分については，接近不可能または所在地不明の遺跡を除いてほぼ予想通りの遺跡の調査を終え，あと２，３の遺跡を残すのみとなった。現在データの分類整理と解説の執筆作業は 3 分の 2 が完成し，データベース化することで順次公開していくことが可能であると見込む。その他の資料についても順次データを拡充している。

(3)文学論への応用研究

ペルシア古典文学における語源研究の一環で行うペルシア語語源辞典の拡充については，当初の予定からさらに発展させ，一語一語に付き詳細な分析と考察を加えることになった。具体的には，次の諸項目について調査し,分析した：ペルシア語語義，古辞書解説，語源，近期イラン諸語，中期イラン諸語，古期イラン諸語，古期インド語。近期イラン諸語以下はそれぞれ対応する下位項目を持ち，個別に語源項目との対応関係を記述した。語源については従来説を踏襲するものが多いが，創見を陳述できるものは詳細に自説を論じた。その結果，効率的に作業を進行できなかった反省はあるもののペルシア語語源研究にとって有益なデータを提供できると考える。ペルシア現代文学論への応用研究については平成 21 年度よりネイティブの研究者を連携研究者として新たに加え，研究体制を強化した。口承文芸研究への応用研究についても，民間信仰の呪術の研究において発展があった。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

(1) イラン国内での資料収集

各年度，研究代表者等がイランへ渡航して

資料収集を行っている。特に、イスラム以前の遺跡資料の収集に係る活動を重点的に行っている。

(2) データベース構築
　データベースの中で古代遺跡に該当する部分については，当初計画通りに，エラム王国時代からサーサーン朝時代に至るイスラム以前の各時代の遺跡調査を，２，３の遺跡を残しほぼ終了し，現在はデータの分類整理作業に入れている。その他の資料についてもほぼ研究に必要な分量に達している。

(3) 文学論への応用研究
　ペルシア語語源については，2-(3)で述べたように，より詳細な内容としたため，当初の計画からは遅れている。一般的な語源辞書に見かける単なるデータの羅列ではなく，ペルシア語一語一語について語源を考察するという体裁を取ったために，一語の考察に多大な時間を要したことが原因である。しかし，詳細な考察を行ったことによる研究成果は出ていくものと考える。ソフレ儀礼および口承文芸としての民間信仰についての研究も一定の成果を上げている。

４．今後の研究の推進方策
(1) イラン国内での資料収集
　従来の手法を踏襲し，継続して現地で資料を収集する。古代イランの遺跡データベースについては，現地調査は残る 2，3 の遺跡の調査と他遺跡の画像再確認調査を行うことで完了する。

(2) データベース構築
　データベースは既に稼働しており，今後，分類整理するデータをデータベースに組み込むことで本作業は終了する。おそらく，今まで世界で一度も試みられなかったデータベースが完成すると思われる。

(3) 文学論への応用研究
　ペルシア語語源に係る研究作業は拙速を避け従来通りに進める。現代文学および口承文芸の応用研究についても，同様に，従来の研究手法に大きな変更は加えず，着実に成果を出すことを目指す。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）
①竹原新，現代イランの積極的呪術，イラン研究，第６号，128-159，2010，査読有
②森茂男，ペルシア語 shudan と raftan について，イラン研究，第５号，343-360，2009，査読有

③羽田美希，ファーテメ・ザフラーのソフレ:調査ノート、イラン研究，第５号，234-342，2009，査読有

④森茂男，ロバについて，イラン研究，第４号，205-214，2008，査読有

〔その他〕
ホームページ
http://persian.minoh.osaka-u.ac.jp/~worksite/iran_tc_db/public/top.htm